

2024 年度中小企業者向け脱炭素セミナー 概要レポート

日時：2024 年 9 月 24 日(火)14:00～15:30

会場：千代田区役所 4 F 会議室 A B

次第：①なぜ脱炭素が必要か？区による支援は？（15 分）

講師：千代田区 ゼロカーボン推進技監 川又 孝太郎

②地域金融機関による脱炭素経営支援（15 分）

講師：環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室 企画官 平良 耕作 氏

③2050 ゼロカーボンちよだと千代田エコシステム（CES）（15 分）

講師：グリーンスタート合同会社 代表社員（CES 理事） 岩崎 孝雄 氏

④E サイクルちよだ～再エネ電力に切り替えませんか？～（15 分）

講師：(株)まち未来製作所 シニアコンサルタント 辻野 昌広 氏

⑤パネルディスカッション（15 分）

⑥質疑応答（10 分）

千代田区は 2021 年に「気候非常事態宣言」を発出するとともに、2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「2050 ゼロカーボンちよだ」を掲げました。中小企業者の皆様から寄せられる「なぜ脱炭素が必要なのか」「何から始めたらよいか分からない」という声にお応えして、昨年度に引き続き「中小企業者向け脱炭素セミナー」を開催しました。当日は区内中小企業者の方をメインに、参加者で会場の座席がほぼ満席となりました。区の若手職員が司会を務め、講演者に対して講演の締めくくりに自然に拍手が送られるなど、大変活気あふれるセミナーとなりました。

「そもそもなぜ脱炭素が必要？」 疑問の核心と区の充実した脱炭素支援策

まず、「なぜ脱炭素が必要か？区による支援は？」をテーマに、千代田区から川又ゼロカーボン推進技監よりお話ししました。

川又技監からは、脱炭素化が世界的な潮流であることの説明に始まり、脱炭素経営に取り組むことで得られるメリットとして、「競争力の強化」「コスト削減」「知名度の向上」「社員のモチベーション向上」「好条件での資金調達」を挙げました。

また、具体的に中小企業者が取れる行動とは何かという点について、「再生可能エネルギーの利用」「建物の断熱」「電動自動車の導入」の3点を強調しました。さらに、中小企業向けの脱炭素化への取組ステップとして「知る（情報収集）」「測る（CO2 排出量の算定・省エネ診断受診）」

「減らす（削減計画の策定・実施）」の3ステップを提示しました。最後に、省エネ改修に関する助成や「コンサルタント相談」「脱炭素アドバイザー資格受験料」に関する助成など、区の充実した脱炭素支援策を紹介して締めくくりました。

サプライチェーンの中で中小企業に求められる ESG 対応

続いて、「地域金融機関による脱炭素経営支援」をテーマに、環境省の平良企画官よりお話をいただきました。

平良企画官は、サプライチェーン全体での脱炭素化の動きが進んでおり、大企業だけでなく中小企業も含めた取り組みが必要とのことで、地域の中小企業にとっても ESG（環境・社会・ガバナンス）対応が求められており、これによる「取引先拡大」「コスト削減」「働き手の確保」などのメリットを挙げました。

具体的な事例として、環境配慮型の印刷や脱炭素化の取り組みによりコスト削減と働き手の確保を実現した企業や、働きやすい環境の整備により人材が定着した企業を紹介して講演を終えました。

中小企業が自社でも取組み可能な EMS その方法とは

続いて、「2050 ゼロカーボンちよだと千代田エコシステム (CES)」をテーマに、CES 理事の岩崎氏よりお話しをいただきました。

千代田区の環境マネジメントシステム (EMS) として CES を紹介した後、事業者を対象とした CES クラスⅢの導入、運用の流れとして、「事前準備」「計画の策定」「計画の実施」「点検・評価」「見直し」のステップに分けて説明がありました。

最後に、自社での EMS の構築と運用のポイントとして、トップダウンで進めること、全員が主体的に取り組むこと、定期的な教育の実施、点検結果の共有、未来志向で進めることを強調して講演を締めくくりました。

「顔の見える」再エネ電力提供スキーム「E サイクルちよだ」

続いて、「E サイクルちよだ～再エネ電力に切り替えませんか?～」をテーマに、(株)まち未来製作所の辻野氏よりお話しをいただきました。

講演では、再エネ電力販売スキームである「E サイクルちよだ」の概要について、「連携自治体への貢献」「値下げ入札によるコスト低減」などの観点から説明しました。

E サイクルちよだでは、再エネ電力の販売資金の一部が地域活性化資金に回り、連携する発電所立地地域に還元されます。また再エネ電力は競下げ入札により、電気代コストの低減を図り、最適な電力料金プランを選択可能にします。最後は辻野氏が、E サイクルちよだにおける再エネ電力の申し込み方法を説明して講演を締めくくりました。

「脱炭素への取組み」はメリットが多い まずは第一歩を（パネルディスカッションから）

セミナー開催に先立って、区では事前にパネルディスカッションで取り上げるテーマを参加者から募集していました。「中小企業が脱炭素に取り組むメリットとは何か」「中小企業がまず何から取り組んだらよいか」といった、中小企業が脱炭素に取り組むための核心に迫るテーマが寄せられました。

「中小企業が脱炭素に取り組むメリットとは何か」について、まず平良企画官は、「投資家や金融機関からの評価向上」「サプライチェーンにおける信用力」「従業員からの企業イメージの向上」の3点を挙げました。次に川又技監は、「省エネへの取組みがコスト面で魅力的である」と、「リクルートにおける企業イメージのアップ」を挙げました。岩崎氏からは、「エネルギー消費量の集計作業などを通して情報がオープンになり社内の風通しが良くなる」「社員・取引先・自治体などから脱炭素への取組みが要望される中、それらの要望を満たすことで信頼の向上につながる」の2点が示されました。

続いて、「中小企業がまず何から取り組んだらよいか」について、まずは川又技監が自身の講演内容から「知る・測る・減らす」の3ステップを改めて説明しました。次に岩崎氏は「まずは社内で EMS 導入の意思決定をしましょう」と、辻野氏は「再エネのコスト比較についてご相談ください」と呼びかけました。

「テナントの場合は」「当事者として」(質疑応答から)

式次第の最後の質疑応答でも、活発に質問が寄せられました。

まずは、「テナントはどうすれば良い?」という点について質問が出ました。特に中小企業はビルのテナントに入る場合が多く、自社のみの意思決定で再エネ切り替えができない現状があります。このことについて川又技監より「省エネについては窓断熱が取り組みやすい」と解決策が示されました。なお、E サイクルちよだを通じて非化石証書を購入することで電力からの排出をゼロとすることもできます。

続いて、質問者が「2050 ゼロカーボンちよだの達成のためには区内企業全員が当事者と自覚している」と前置きした上で、「企業を幅広く取り込む何らかの制度が必要ではないか?」との質問を寄せました。このことについては区から環境政策課金丸主任より、各事業者の温暖化配慮の取組状況を毎年区に報告する制度である「温暖化配慮行動計画書制度」を紹介しました。

最後に川又技監から「脱炭素のためには多くの人を巻き込む楽しい仕掛けが必要」と締めくくり、大盛況のうちに終了となりました。

▼質疑応答で参加者からの質問に答える川又ゼロカーボン推進技監



～参加者からの声～

- ・これまで、民間や国、都の脱炭素に係るセミナーへの参加、報告会の視聴等は行ってきたものの、区レベルでのセミナーに参加したのは初めてだったため、千代田区としての働きかけや取組みを学ぶことができ良い機会となった。
- ・今回のセミナーで得られた情報をしっかりと自社の取組みに落とし込み出来ればと考えております。
- ・もっと多くの企業の方に聞いてもらえれば良いと思います。